

Vol.111

農政局だより@ひょうご

2025.6
H-SATT

〒650-0024

神戸市中央区海岸通29 神戸地方合同庁舎

TEL:078-331-5924 Email:hyogo28_hsatt_kinki@maff.go.jp



ディスカバー 農山漁村の宝 AWARD ～第12回選定～

応募は
こちらから



**地域の活性化や所得向上につながる
農山漁村の取組事例を表彰します！**



「ディスカバー農山漁村（むら）の宝とは

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」とは、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の地域資源を活用した、地域の活性化や所得向上に取り組んでおられる優良事例を選定し、全国に発信するものです。平成26年から実施し、令和6年までに345の優良事例を選定しています。



あなたの農山漁村の「宝」を教えてください

地域において、新たな需要の発掘・創造や潜在している地域資源の活用を行うことにより、農林水産業・地域の活力創造につながる、次の①～③のいずれかに該当する取組（あなたの農山漁村の宝）を教えてください。

募集取組

- ① 美しく伝統ある農山漁村の次世代への継承
- ② 幅広い分野・地域との連携による農林水産業・農山漁村の再生
- ③ 国内外の新たな需要に即した農林水産業の実現

募集期間

令和7年6月2日月～8月12日火

「ディスカバー農山漁村の宝」ホームページ <https://www.discovermuranotakara.com/>



「キラリ」☆
現場にて

「佐用の大地が育むひまわり和牛」で受賞！ ＜加西市 兵庫県立農業大学校 梶山 果梨さん＞



令和6年度「全国農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会」の意見発表の部において最優秀賞 農林水産省経営局長賞を受賞された兵庫県立農業大学校畜産専攻2年生の梶山果梨さんにお話を伺いました。

一畜産を志したきっかけは？一

特別、農業に関心があった訳でもなく、祖母の田畑を継ぐという家族の期待に応えるために農業を志し、農業科学科のある県立佐用高等学校に入学しました。

高校時代に雌牛の世話を経験したことがきっかけで、最初は雌牛への好奇心だったものが次第に愛情へと変わっていきました。

この雌牛との出会いによって、近隣の牛舎巡りをするうちに高齢化等により廃業が増えている牛舎が多いことを知り、耕作放棄地や農山村の過疎化が問題視されている佐用町の役に立ちたい！何より、過去に畜産が賑わっていた佐用町の歴史を風化させたくない！と強く思うようになりました。

そして、より深く畜産について学ぶため、農業大学校の畜産課程に進みました。



一大学ではどのようなことに取り組んでいますか一

佐用町はひまわりが有名ですが、ひまわり油粕は肥料としての養分が高く、優れた有機肥料としての資源であるとともに飼料としての栄養価も高いため、子牛への給与により優れた発育への効果も期待できると考えています。現在、大学において、ひまわりの油粕に含まれるオレイン酸やリノール酸が和牛にどのような発育向上への効力があるのか調査・研究を行っています。

一就農後に実践したいことや将来の目標は？一

佐用町のひまわり油粕を活用した但馬牛生産農家の拡大に取り組みたいです。

牛の堆肥は日本の棚田100選にも選ばれている乙大木谷の棚田（佐用町）に還元し、その棚田で育てた飼料用米を自給飼料として活用することで町内が資源で循環する耕畜連携の発展にも貢献できたらと考えています。

将来的には、ひまわり油粕を給与した佐用和牛を「ひまわり和牛」として地域ブランドを確立できたらと思います。

その際は、祖母の田畑を拠点に地域と連携した和牛プランナーとして、ひまわり和牛の生産に関わりたいと考えています。

さらには、地域のつながりが深い佐用町の特徴を活かして、地元の学生向けアグリスクールを開催し、将来を担う



牛舎での作業風景



若者達が自信を持って畜産に携わることができるようにサポートしていきたいです。

解説！ 基本計画

基本計画で新たに設定された「摂取熱量ベース」の食料自給率って何ですか？

食料自給率は、食料の国内消費に占める国内生産の割合を示す指標です。現行の食料自給率に加え、**1人当たりの必要な摂取熱量に対して、どの程度、国内生産が確保されているか**を示すため、国民に供給される食料から食品ロス等を除いた熱量である摂取熱量を分母とし、国内で生産される食料の熱量を分子とする「摂取熱量ベース食料自給率」を新たに設定しました。これにより、食品ロスの削減などに、より関心を持っていたき、食料安全保障にも資すると考えています。

食料自給率目標（2023年度→2030年度）

「摂取熱量ベース」の食料自給率 = $\frac{\text{国産供給熱量}}{\text{平時における国民の日常生活に必要な摂取熱量 (1,850kcal)}}$: 45% → 53%

副地方参事官

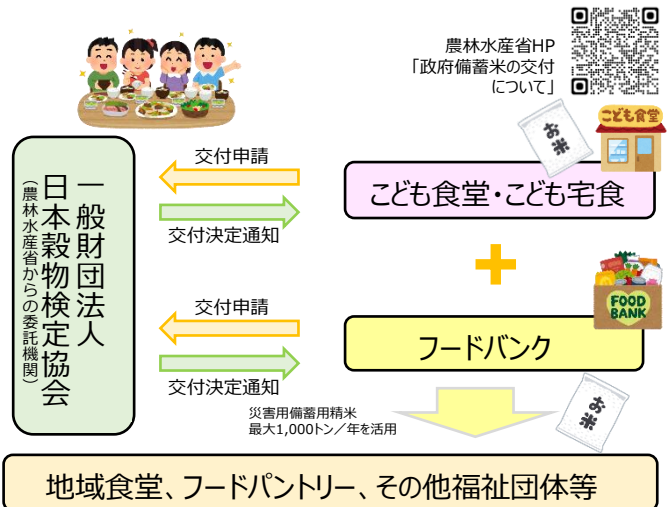


政府備蓄米の無償交付 (こども食堂・こども宅食、フードバンクへの支援)

農林水産省では、ごはん食を通じた食育の推進を図るため、こども食堂・こども宅食やフードバンクに政府備蓄米を無償交付しています。

こども食堂・こども宅食

支援対象：ごはん食の提供又は食材としてお米を提供・配付する団体・運営者の取組
支援要件：食事の提供やお米を配付する際に、ごはん食の魅力を伝えるなど食育の取組を行うこと
支援上限：団体ごとに1申請当たり600kg（年度内に合計5回の申請が可能）
申請方法：「一般財団法人 日本穀物検定協会」へ申請書類等をメール送付
申請期間：通年で受付
 令和7年4月25日(金)から令和8年3月20日(金)までの間は、(財)日本穀物検定協会に申請



フードバンク

支援対象：食育活動を支援するフードバンク
支援要件：①法人格を有していること、②団体として1年以上の活動実績があること、③「フードバンク活動における食品の取扱い等に関する手引き」に基づく食品の取扱いを行っていること、④地方公共団体と連携した取組を行っていることなど
支援上限：申請団体ごとに、当該団体における前年度の食品取扱実績の1/5以内（50トンを上限）
申請方法：「一般財団法人 日本穀物検定協会」へ申請書類等をメール送付
申請期間：調整中（年2回予定）決定次第、(財)日本穀物検定協会HPにてお知らせ



環境保全に配慮した農業に取り組む農家さんのご紹介

阪神こだわりやさいの会 会長 遠藤 晃久さん

取組の紹介

—都市近郊農業の強みを生かして—

阪神こだわりやさいの会は、2008年、阪急西宮ガーデンズ（西宮市）のインショップでの野菜販売をきっかけに、遠藤さんを含む尼崎市の農業者4名で設立されました。

遠藤さんは尼崎市市内の10カ所のほ場で、他の会員もそれぞれのほ場で「ひょうご安心ブランド」の野菜、約90種類を栽培されており、主に阪急西宮ガーデンズやコープこうべに出荷されています。



こだわり野菜販売状況

また、遠藤さんは食育活動として市内の幼稚園児の芋掘り体験、野菜ソムリエの資格を生かした料理教室（子供クッキング）等に取り組まれています。

このほか、福祉事業所に野菜の収穫や袋詰め作業を委託する農福連携にも力を入られています。

今後は、今取り組んでいる農福連携の拡大、そして、小・中学校の学校給食へのこだわり野菜の提供の取組を考えておられます。

阪神こだわりやさいの会 メンバー



遠藤さん



高寺さん



西治さん



島中さん



阪神こだわりやさいの会

※ひょうご安心ブランドは、兵庫県が審査・認証した食品であり、化学肥料・農薬の使用を5割以上減らし、残留農薬・抗生物質等が国の基準の1/10以下、出荷記録による管理を徹底した食品です。



ぶどう栽培の楽しさとおいしさを伝えたい！

南畑いわみ農園 宮 未来さん（三木市）



三木市でぶどうを栽培する、南畑いわみ農園の宮未来さんにお話を伺いました。

～ 就農したきっかけは？～

神戸市から三木市の「南畑いわみ農園」に通い、ぶどう栽培のアルバイトをしていましたが、ぶどう栽培の楽しさ、ぶどうの美味しさに惹かれ、2013年に三木市に移住、アルバイトを続けながらぶどう栽培の技術を学びました。

2021年に高齢化と後継者不足に悩む南畑農業生産組合所有のぶどう園を継承し、就農しました。



～ どのような取組をされていますか？～

64 a の園地で夫と二人でぶどう栽培に取り組んでおり、古い木を植え替えながら、新しい品種を増やしているところです。

現在、7 品種（ピオーネ、藤稔、シャインマスカット等）を栽培しており、収穫時期を8月上旬から9月下旬まで分散し、市内の「細川町金屋直売所」や三木市役所前で直売しています。

直売所での販売は午前中が多く、早々に売り切れてしまうことが多いため、午後から販売したり、販売日時などの情報をSNSで発信するなど多くの方に購入していただけるよう工夫をしています。

直売所では購入者と直接話をするので、ぶどう好きの方との交流が生まれ、繁忙期に手伝いに来ていただくこともあります。



～ 今後の展開は？～

南畑に残るぶどうの棚を守っていくため、栽培面積をさらに20 a 増やし、同じ三木市のぶどう農家と共同で新しい品種、新しい栽培方法を試してみたいと思っています。

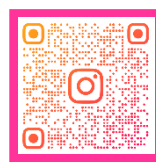
また、繁忙期の人手不足に対応するため、去年は福祉施設に通う方に来ていただきました。農福連携は就農する際の目標の一つだったので、今後も取り組んでいきたいです。



左上から時計回りに
シャインマスカット、ピオーネ、
藤稔、クイーンニーナ、
ブラックビート



Facebook



Instagram

「ひょうごの農福連携拡大に向けて」（ひょうごチャンネル）

兵庫県は、県内で活躍されている農福連携の取組を紹介する動画「ひょうごの農福連携拡大に向けて」を「ひょうごチャンネル」に公開しました。

○農福連携とは何か

○これから農福連携に取り組もうとする事業者の方へのアドバイス

○農業・福祉それぞれのメリットや課題

などが紹介されています。農福連携に対し不安や興味をお持ちの方、ぜひ一度ご覧ください！

※「ひょうごチャンネル」は、兵庫県が運営するインターネット放送局です。



ひょうごの農福連携拡大に向けて

ひょうごチャンネル

地 方 参 事 官 ホ ッ ト ラ イ ン

農政に関するご相談、事業や制度へのご意見・ご質問などがございましたら、お気軽に地方参事官ホットラインまでお問い合わせ下さい。また、広報誌に対するご意見等もお待ちしています。

TEL : 078-331-5924 Email: hyogo28_hsatt_kinki@maff.go.jp